

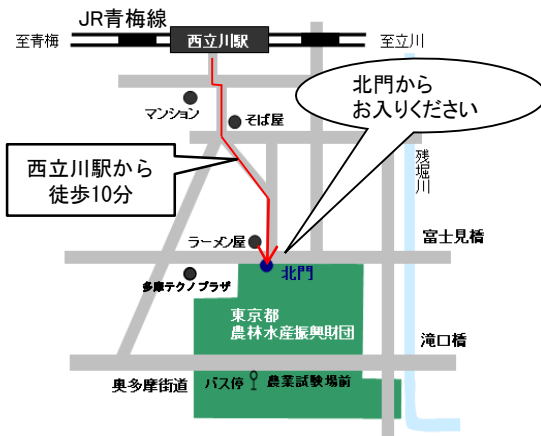
東京都農林総合研究センター 研究成果発表会を開催します

東京都農林総合研究センターでは、農業や畜産業、林業、食品産業など、生産者や都民の暮らしに役立つ試験研究に取り組んでいます。

この度、平成29年度に得られた試験研究の成果について発表会を開催いたします。農作物を加害するアブラムシやコナジラミなどの防除に関する特別講演もごさいますので、農林業関係者の皆様はもとより、幅広い都民の皆様のご来場をお待ちしています。

日 時 平成30年2月26日(月)
10:00~16:00
会 場 (公財)東京都農林水産振興財団
立川庁舎 講堂
住 所 立川市富士見町3-8-1
参加申込等 事前申込不要・入場無料

※駐車場には限りがありますので、
公共交通機関のご利用をお願い致します



○ 主な発表演題

『東京型統合環境制御生産システムの開発』

～トマトやキュウリの収量を飛躍的に高めます～

東京の限られた農地の小規模施設でも高い収益を可能とする、IoTを活用した先端的な施設栽培システムを開発しました。



『東京2020大会に向けた「夏花による緑化マニュアル」の作成』

～真夏のオリンピック・パラリンピックを花いっぱいに彩ります～

東京2020大会に向けて、夏に強い約200種類の花を選定し、その成果をまとめた「夏花による緑化マニュアル」を作成しました。



『キウイフルーツ「東京ゴールド」の栽培技術の開発』

～東京生まれのキウイフルーツのブランド化をめざします～

果肉が黄色で甘みの強いキウイフルーツ「東京ゴールド」の高品質化と安定生産に向けた栽培技術を開発しました。



○ 特別講演

『ウイルスを媒介するアブラムシやコナジラミなどの生態と防除対策』 ～都市の集約的園芸生産の安定化に向けて～

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター
産学連携コーディネーター 本多 健一郎 氏

このほかにも10課題の発表があります。詳細は、(公財)東京都農林水産振興財団HP
(<http://www.tokyo-aff.or.jp/>) をご覧ください。

<問い合わせ先>

(公財)東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター 研究企画室 益永・保坂 電話 042-528-5216 (直通)
産業労働局農林水産部 調整課 板倉・松本 電話 03-5320-4809 (直通) 都庁内線 37-140

平成29年度 研究成果発表会プログラム

開会		10:00
1	『伊豆大島の特産花きブバルディアの新品種育成を目指して』 ～新品種として有望な個体を作り出しました～	園芸技術科 宮下 千枝子 10:05 ~ 10:20
2	『生息域を拡大しているシカはどこからきたのか』 ～DNA解析を用いた行動範囲の判別～	緑化森林科 畑 尚子 10:20 ~ 10:35
3	『ワケネギの残留農薬』 ～農薬の残留性を調査しました～	生産環境科 小山 知生 10:35 ~ 10:50
4	『収穫作業の向上をめざしたコマツナ生産管理方法の改善』 ～コマツナの束ね作業性を向上させます～	江戸川分場 森 研史 10:50 ~ 11:05
5	『リン酸過剰の畑とどう付き合うか』 ～畑にたまったリン酸を有効に使う目安をつくりました～	生産環境科 坂本 浩介 11:05 ~ 11:20
6	『乳牛の暑熱対策』 ～夏場はシャワーで乳量・乳質の低下を抑えます～	畜産技術科 平塚 徹也 11:20 ~ 11:35
7	『東京2020大会に向けた「夏花による緑化マニュアル」の作成』 ～真夏のオリンピック・パラリンピックを花いっぱいに彩ります～	園芸技術科 岡澤 立夫 11:35 ~ 11:50
休憩		11:50 ~ 13:10
特別講演 『ウイルスを媒介するアブラムシやコナジラミなどの生態と防除対策』		13:10 ~ 14:10
休憩		14:10 ~ 14:25
8	『施設トマトの需要拡大に向けた高糖度化技術の開発』 ～甘いトマトを作る方法を紹介します～	園芸技術科 木下 沙也佳 14:25 ~ 14:40
9	『ナシにおけるハダニ類の実態解明と防除対策』 ～難防除害虫であるハダニ類の効率的な防除体系を構築しました～	生産環境科 飯塚 亮 14:40 ~ 14:55
10	『キウイフルーツ「東京ゴールド」の栽培技術の開発』 ～東京生まれのキウイフルーツのブランド化をめざします～	園芸技術科 杉田 交啓 14:55 ~ 15:10
11	『河川・海浜敷等の緑化に向けた樹種の選定』 ～都市の緑化に使える乾燥等に強い植物を紹介します～	緑化森林科 佐藤 澄仁 15:10 ~ 15:25
12	『小笠原諸島近海のソデイカを利用した水産ねり製品の開発』 ～ふわっとしたかまぼこと、もちっとしたソーセージをつくります～	食品技術センター 野田 誠司 15:25 ~ 15:40
13	『東京型統合環境制御生産システムの開発』 ～トマトやキュウリの収量を飛躍的に高めます～	生産環境科 中村 圭亨 15:40 ~ 15:55
閉会		16:00

特別講演 『ウイルスを媒介するアブラムシやコナジラミなどの生態と防除対策』 ～都市の集約的園芸生産の安定化に向けて～

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター
産学連携コーディネーター 本多 健一郎 氏

アブラムシやコナジラミなどの微小害虫は、各種の植物ウイルスを媒介することにより農業生産に重大な被害をもたらします。虫媒性ウイルス病の流行には、媒介虫以外にも様々な生態的環境要因が関わっています。北日本のダイズ産地で発生するダイズわい化病と温暖地のトマト施設栽培で問題となるトマト黄化葉巻病を例として、媒介虫の発生生態と保毒率の調査に基づいた虫媒性ウイルス病の流行要因解析と対策技術について紹介します。

<本多 健一郎(ほんだ けんいちろう)氏 プロフィール>

農林水産省東北農業試験場、農業研究センター、農研機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域長、野菜茶業研究所長などを経て、2017年4月より中央農業研究センター産学連携コーディネーター。主な研究課題としては、「アブラムシの多型とウイルス病媒介に関する研究(1988-2002)」、「コナジラミのウイルス病媒介と防除に関する研究(2003-2011)」。

推進リーダーを担当した主な研究プロジェクトは、新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「果菜類の新規コナジラミ(バイオタイプQ)等防除技術の開発(2006-2008)」、農林水産省委託プロジェクト「害虫の光応答メカニズムの解明及び高度利用技術の開発(2009-2013)」など。



東京都農林総合研究センター研究成果発表会

日時 平成30年2月26日(月) 10:00~16:00

場所 (公財)東京都農林水産振興財団 立川庁舎 講堂

特別講演 13:10~14:10

『ウイルスを媒介するアブラムシやコナジラミなどの生態と防除対策』 ～都市の集約的園芸生産の安定化に向けて～

農研機構 中央農業研究センター 産学連携コーディネーター 本多 健一郎 氏

＜要旨＞アブラムシやコナジラミなどの微小害虫は、各種の植物ウイルスを媒介することにより農業生産に重大な被害をもたらします。虫媒性ウイルス病の流行には、媒介虫以外にも様々な生態的環境要因が関わっています。北日本のダイズ産地で発生するダイズわい化病と温暖地のトマト施設栽培で問題となるトマト黄化葉巻病を例として、媒介虫の発生生態と保毒率の調査に基づいた虫媒性ウイルス病の流行要因解析と対策技術について紹介します。

＜本多 健一郎 (ほんだ けんいちろう)氏 プロフィール＞

農林水産省東北農業試験場、農業研究センター、農研機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域長、野菜茶業研究所長などを経て、2017年4月より中央農業研究センター産学連携コーディネーター。主な研究課題としては、「アブラムシの多型とウイルス病媒介に関する研究(1988-2002)」、「コナジラミのウイルス病媒介と防除に関する研究(2003-2011)」。



10:05~10:20

① 『伊豆大島の特産花きブバルディアの新品種育成を目指して』 ～新品種として有望な個体を作り出しました～

ブバルディアの産地からは東京オリジナル品種の育成が望まれています。品種改良の手法や材料がほとんどありません。そこで、倍数性育種法と交配育種法の基礎を確立し、これらの手法により新品種や中間母本として有望な多くの個体を作りました。

10:20~10:35

② 『生息域を拡大しているシカはどこからきたのか』～DNA解析を用いた行動範囲の判別～

都内の森林ではニホンジカによる苗木の採食などの被害が拡大しています。近年、新たに被害が発生した八王子市で捕獲されたシカのDNAを解析したところ、西多摩地域や山梨県、埼玉県の一部と同じ遺伝子型であることがわかりました。

10:35~10:50

③ 『ワケネギの残留農薬』～農薬の残留性を調査しました～

ワケネギは、外観が似ている「ワケギ」や「アサツキ」の登録農薬ではなく、「ネギ」の登録農薬を使用することが農薬取締法令で決められています。ワケネギに農薬を散布し残留挙動を調査したところ、使用法を守れば残留基準値を超えないことを確認しました。

10:50~11:05

④ 『収穫作業の向上をめざしたコマツナ生産管理方法の改善』 ～コマツナの束ね作業性を向上させます～

コマツナの収穫作業性は、折れにくさ、抜きやすさ、絡みにくさ、外葉の取れやすさ、細根量、収穫サイズなどが影響します。「春のセンバツ」「いなむら」「夏の甲子園」などの品種は特に作業性に優れます。また、条間と株間の調整で作業性を改善できる可能性があります。

11:05~11:20

⑤ 『リン酸過剰の畑とどう付き合うか』～畑にたまったリン酸を有効に使う目安をつくりました～

作物の生育に欠かせないリン酸は過剰症がおきにくく、肥料をまきすぎる傾向にあり、リン酸の効きが悪い黒ボク畑でも過剰に蓄積している事例がみられます。そこで、土壌に蓄積されたリン酸を有効活用して栽培するための目安をコマツナで作りました。

11:20～11:35

⑥ 『乳牛の暑熱対策』～夏場はシャワーで乳量・乳質の低下を抑えます～

夏季における乳牛の暑熱ストレスを緩和し、乳量・乳質の低下を抑制する技術開発に取り組んでいます。牛の体に散水することで乳量および乳質の低下が抑えられる上、コスト面でも安価なことから、酪農現場における実用性が期待できます。

11:35～11:50

⑦ 『東京2020大会に向けた「夏花による緑化マニュアル」の作成』

～真夏のオリンピック・パラリンピックを花いっぱいに彩ります～

東京2020大会をはじめとする夏季の花壇苗の利用拡大を目指し、これまで1,200種類以上の花壇苗を調査して、ビンカやペンタスなど夏の暑さや乾燥に耐える約200種類を選定しました。この成果を「夏花による緑化マニュアル」にまとめ、生産者や園芸・造園関係者などへ配布しました。

特別講演 13:10～14:10

14:25～14:40

⑧ 『施設トマトの需要拡大に向けた高糖度化技術の開発』～甘いトマトを作る方法を紹介し～

トマトは都内の直売所でも人気の品目で、中でも糖度の高いトマト(高糖度トマト)は目玉商品になっています。しかし、栽培方法と果実品質の関係はあまり知られていません。そこで、高糖度トマトを作る方法とその時に発生しやすい不良果の抑制方法をご紹介します。

14:40～14:55

⑨ 『ナシにおけるハダニ類の実態解明と防除対策』

～難防除害虫であるハダニ類の効率的な防除体系を構築しました～

都内のナシ栽培ではハダニ類の被害が問題となっていますが、繁殖力が高く、農薬に対する抵抗性が発達しやすいため、農家は防除に苦勞しています。そこでハダニ類の発生生態と効果のある農薬を明らかにし、被害を抑制できる防除体系を構築しました。

14:55～15:10

⑩ 『キウイフルーツ「東京ゴールド」の栽培技術の開発』

～東京生まれのキウイフルーツのブランド化をめざします～

黄肉系で甘みの強いキウイフルーツの東京オリジナル品種「東京ゴールド」は、さらなる普及拡大が期待されています。より高品質な東京ゴールドを安定生産するために、従来の緑肉系の主要品種「ヘイワード」と異なる本品種の特性を生かした栽培技術を開発しました。

15:10～15:25

⑪ 『河川・海浜敷等の緑化に向けた樹種の選定』

～都市の緑化に使える乾燥等に強い植物を紹介します～

新たな緑化スペースとして期待される都市空間に向く樹種として、河川敷には河川の増水による浸水に強い樹種117種、海浜敷には津波や高潮による浸水や潮風等に強い樹種74種、鉄道敷には切土・盛土斜面等の乾燥に強い樹種65種を選定しました。

15:25～15:40

⑫ 『小笠原諸島近海のソデイカを利用した水産ねり製品の開発』

～ふわっとしたかまぼこと、もちっとしたソーセージをつくります～

小笠原のソデイカを用いて、その酵素による加工への影響を明らかにし、起泡性を活かしたはんぺん様かまぼこや、乳化能と粘着力を活かしたソーセージを開発しました。ソーセージは、レトルト殺菌することによって、イカ風味が強化され、常温保存が可能になります。

15:40～15:55

⑬ 『東京型統合環境制御生産システムの開発』～トマトやキュウリの収量を飛躍的に高めます～

先端的栽培技術とIoTを活用し、小規模な太陽光利用型植物工場のシステムを開発しました。栽培施設の高機能化と低コスト化を追求し、トマト・キュウリの周年栽培による高収量を実現し、特にトマトでは年間収穫量が10aあたり50tを越え、東京の小さな農地でも高い収益が期待できます。